

これからの 学校の話しよう

**Move
Forward**
未来はわたしたちが創る
武雄市学校教育ビジョン



ひとりひとりをみつめて 学校を次の時代へ進める



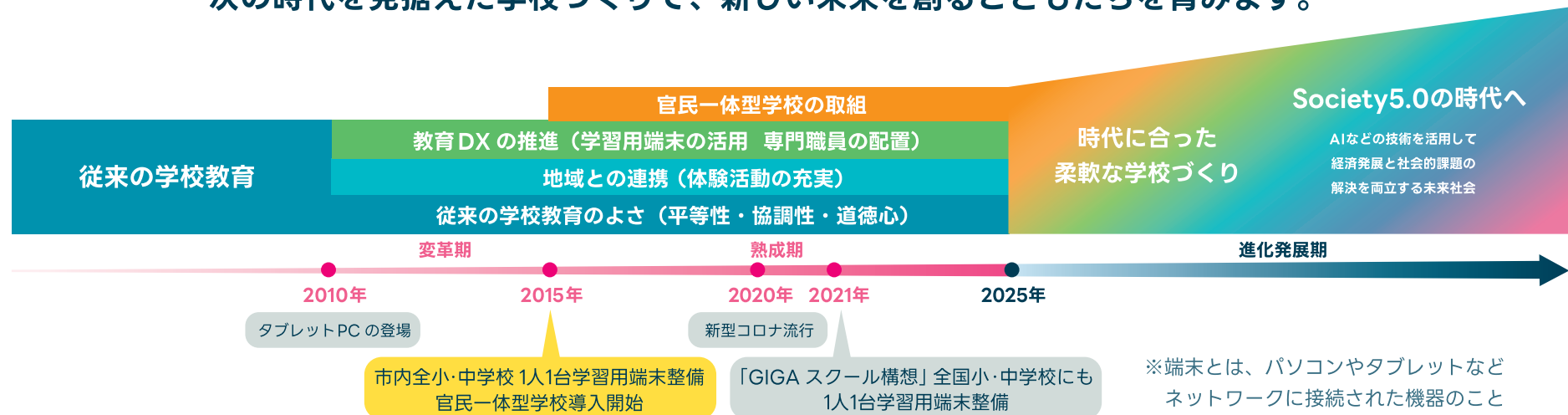
一人ひとりのペースで個性を伸ばし、
それぞれの幸せを自ら実現できる。

そんな子どもたちの成長が、社会を未来へと進めます。

教育DX や 官民一体型学校、豊かさを体験する 地域づくり を通じた
多様な学びを全国に先駆けて取り組んできた武雄市。



次の時代を見据えた学校づくりで、新しい未来を創る子どもたちを育みます。

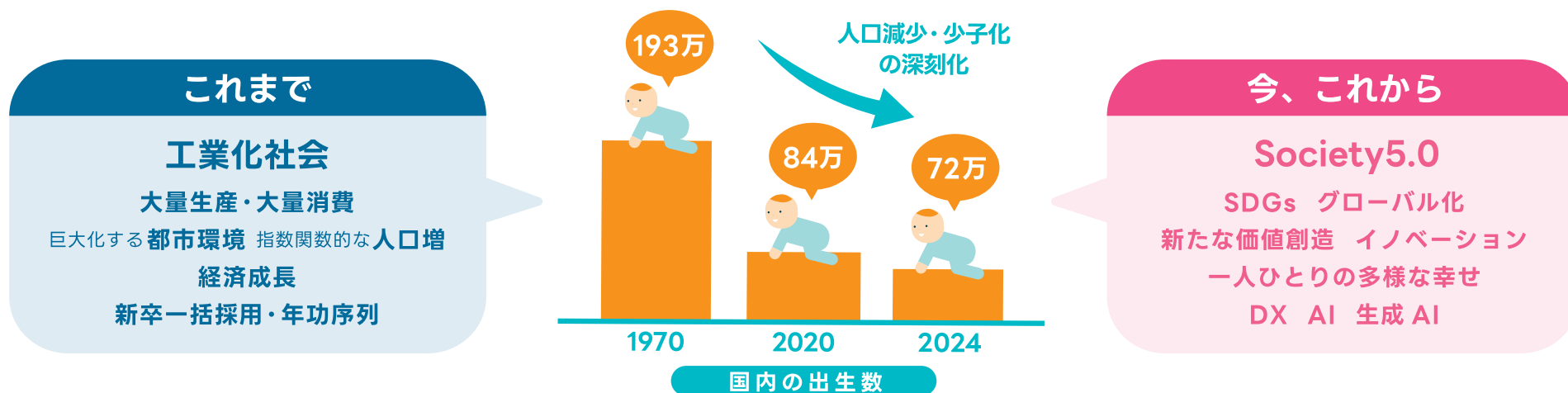


武雄市では 学習用端末やネットワークなどの環境を整備し、全国に先駆けてICTを活用した授業に取り組んできました。
これまでの経験によって多くのノウハウも蓄積されています。また、民間と協働した個々の力を伸ばす学びや地域と連携した体験活動など、次の時代を担う人材を育てる環境が整っています。

こどもたちを取り巻く環境が変わっている

かつての工業化社会では、同質性・均質性を重視した一律一様の教育・人材育成が求められ、一斉授業・平等主義のもと、世界トップレベルの教育システムが日本の高度経済成長を支えてきました。

時代は変化し、人口減少・少子化の深刻化とともに、ICT 技術の急速な進歩により「新たな価値創造」「イノベーション創出」「一人ひとりの多様な幸せ」を目指す Society5.0 時代へと向かっています。そしてアフターコロナという大きな時代の転換期にある今、すべてのこどもの可能性を最大限に引き出すために、教育システムの抜本的な転換が急務となっています。



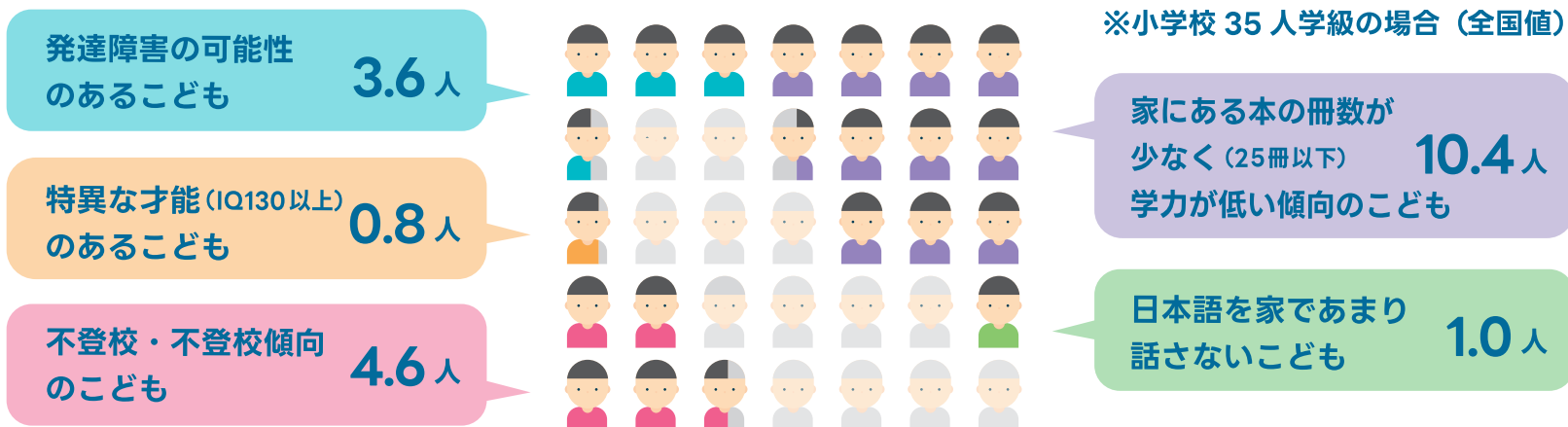
地方では人口減少、少子化がより深刻化しており、都市部との格差が懸念されています。特に、少子化が進むことによる小規模学校の増加や部活動の部員減少といった地方の教育現場の課題が顕著にみられます。

武雄市では この18年間に（2006年の1市2町合併から2024年までの間）小学校児童数の25%、中学校生徒数の30%が減少しています。少子化の社会においても教育環境の充実を図るため、こども一人ひとりの生きる力を育む教育を構築してきました。これまでの経験を生かし、地域全体が一体となり、より良い教育環境の進化・発展を目指します。

すべてのこどもたちの個々の力を伸ばす

いま、教室には様々な個性のあるこどもが在籍していますが、同学年の集団は同調圧力が働きやすく、学校になじめず苦しむこどもや、行きたくても行くことができないこどもが増加しています。すべてのこどもの可能性を最大限に引き出す教育が求められる中、こどもの個性を伸ばす多様な教育環境が必要とされています。

教室の中にある多様性



上記のように数字として表れるこどものほかにも授業の理解度に差があったり、学びやすい方法もそれぞれ違ったりと、こども一人ひとり、みんなが違います。

武雄市では こども一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、将来へとつなげるため、これまでも様々な教育施策や学習の環境整備に取り組んできました。また、家庭環境や経済力、こどもの個性に対応したサポートを、就学前から、教育委員会や市役所の福祉部門が連携し、こどもたちの安心を守る支援体制を確保しています。

次の時代、こどもたちに必要な力とは

変化の激しいこれからの時代、多様な価値観をもつ人々と協力し、未来に向けて自らが社会の創り手となり持続可能な社会を維持・発展させていく人材の育成が重要となります。

一方で、これからは一人ひとりが一生を通して幸せや生きがいを感じ、生きていくことが重要となっていきます。教育を通じてウェルビーイングの向上を追求していくことも求められています。

求められる力



※教科学力だけではなく、非認知能力と呼ばれる見えない力も重視される傾向にあります。

育みたいもの



※ウェルビーイングとは…身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。
多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態であること。

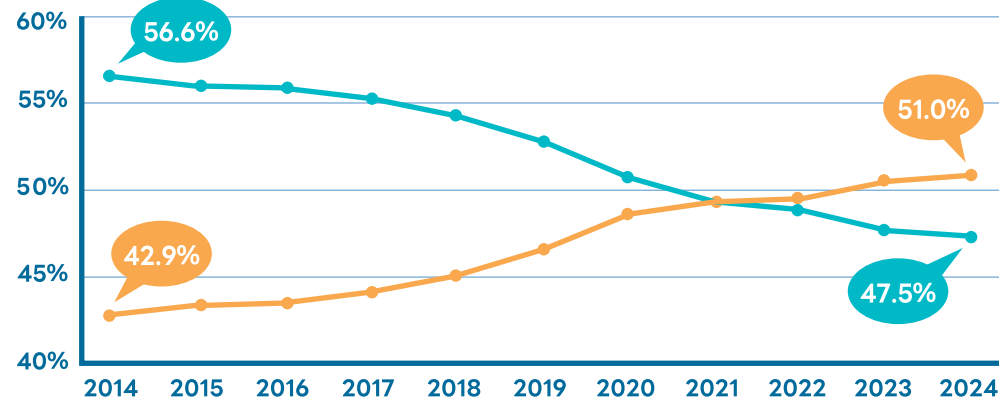
武雄市では

主体的・対話的で深い学びを実現する授業を通して、論理的思考力や問題解決能力を育む教育を実践しています。
また職場体験や農業体験など地域と連携した体験型授業を通して、協働性と豊かな心を育む取組に力を入れています。

こどもたちの未来を考えてみよう

参考資料

大学入試の変化



高校入試や大学入試では、知識の習得だけではなく、思考力や判断力を試す問題が増加し、入試制度の大幅な改革が実施されています。大学入試の形態では、学力を重視する一般選抜よりも、高校までの経験、学びに向かう姿勢や意欲を評価する推薦型選抜や総合型選抜が2022年以降過半数を占めるようになりました。

— 一般選抜 — 学校推薦+総合型(AO型選抜)

企業が採用の観点から、大卒者に期待する資質・能力・知識

日本経団連 2021年度調査 / 国内企業1450社のうち381社がアンケートに回答。各社が特に期待する **資質**・**能力**・**知識** の各要素からそれぞれ3つまでを選択した。

資質

- 1 主体性
- 2 チームワーク・リーダーシップ・協調性
- 3 実行力
- 4 学び続ける力
- 5 柔軟性

能力

- 1 課題設定・解決能力
- 2 論理的思考力
- 3 創造力
- 4 傾聴力
- 5 発信力
- 6 情報活用能力・データ分析力

知識

- 1 文系・理系の枠を超えた知識・教養
- 2 専攻分野における基礎知識
- 3 専攻分野における専門知識

自分で考え、自分らしく過ごす 社会の豊かさを知り、新しい社会を創る

武雄市が掲げる学校教育の「4つのビジョン」と「6つのプラン」

ビジョン
01

自分で考える

主体性
のある学び

主要施策 **プラン①** 授業が変わる

プラン② 特色ある学校づくり



こども一人ひとりの学びを大切にします。多くの人と対話し、課題に協働で取り組み、共に学び合う機会を増やします。そのために、1人1台端末をフルに活用し、教育DXの取組を進めます。

ビジョン
02

自分らしく過ごす

多様性
のある学び

主要施策 **プラン③** 多様な学びの場の充実

プラン④ 支援体制の充実



学校での活動になじめなくなっても、個々の学習を止めないように多様な学びの場を創ります。一人ひとりが必要とする支援につながるように、相談から一連の支援体制を整えます。

ビジョン
03

新しい社会を創る

将来性
のある学び

主要施策 **プラン⑤** 未来を切り拓く力を育む



グローバル化や情報化に対応する力を身につけ、個々の夢に向かって未来を切り拓くためのサポートを行います。社会に交わりながら学ぶ探究型学習の機会を創出します。

ビジョン
04

社会の豊かさを知る

地域性
のある学び

主要施策 **プラン⑥** 豊かな体験を増やす



地域と一体となり、こどもたちが地域の一員として様々な体験を通して成長できる環境を整えます。地域での体験、スポーツや伝統・文化に触れる機会が充実することで心の豊かさを育みます。

プラン① 授業が変わる

個別最適な学び # 協働的な学び # 教育 DX

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

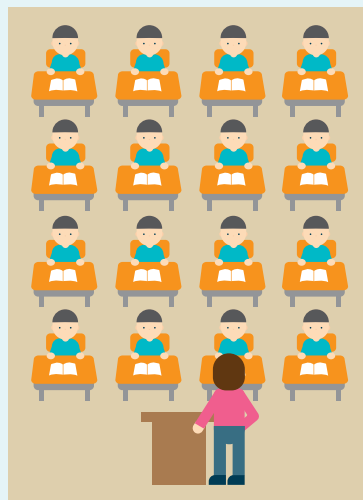
こどもが主体的に学ぶ授業では、こども自身が学びの方法やペースを選びます。

いま問われているのは、「こどもたちにどんな学びを保証するか」です。例えば、一人ひとりが学ぶ方法を自分で選ぶ。自分で学ぶペースを調整する。それが「個別最適な学び」です。また、必要なときには、友達と相談したり、先生に質問したりして、たくさんの人と対話しながら学ぶ「協働的な学び」も欠かせません。このような学びを支えるために、ICT 機器活用による教育 DX が不可欠です。



教育コラム

●従来型の授業



これから



学び方
授業のミックス

●個別最適な学び

●協働的な学び



英語の授業の例

課題に向かって、一人ひとりが方法や順番も選びながら学びを進めていきます。例えば、デジタル教科書の音声聞きながら、繰り返し本文を読む。教科書を使って文法や単語を調べて理解する。デジタルドリルで問題を解いてみる。理解したことを活用して、ALT と話したり、友達とペアやグループで会話や課題解決したりするなど協働で学習する。個々の活動や協働での活動を組み合わせることで、力が身につく授業が展開されています。学習につまずいたときは、教師が適切にアドバイスしたり、学習用端末で友達の考えを参照したりして効率的、効果的に学びを進めます。

注意：これまで同様に、教師を中心に、全員で理解したり、確かめ合ったりする一斉授業での学びも重要です。

プラン① 授業が変わる

個別最適な学び # 協働的な学び # 教育 DX

「授業が変わる」けど、変わらないこと

基礎的な知識や技能を身につけることは、これまでどおり必要です。

これまでの日本の学校教育は多くの面で成果を挙げており、海外からも高い評価を受けています。これからの時代は、これまでのよさを生かしなが、多様性を重視した教育を行うことで、時代に合った新しい学びのスタイルに変わっていきます。

「何ができるようになるか」を意識し、そのためには「どのように学ぶか」を追求していきます。



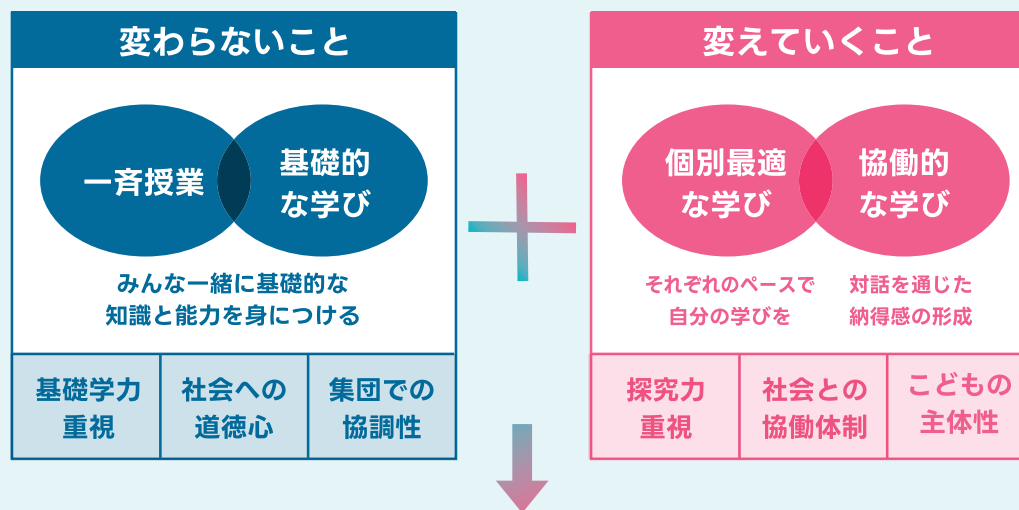
教育コラム

【 変化の激しいこれからの時代 育成を目指す3つの柱 】



文部科学省 学習指導要領

【 教育システムのベストミックス 】



時代にあった新しい学びのスタイル

参考資料

全国学力・学習状況調査

小学6年生と中学3年生を対象に毎年実施されている調査です。

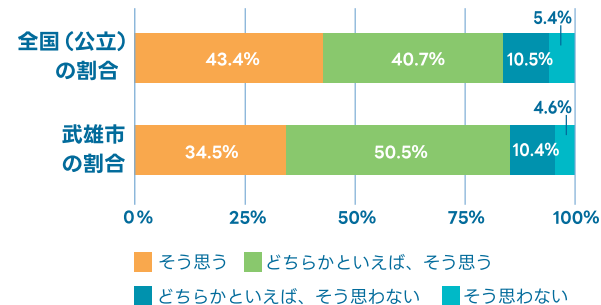
この調査結果を基に、学校では教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、授業の改善を図っています。

■ 意識調査の結果（R6年4月実施）

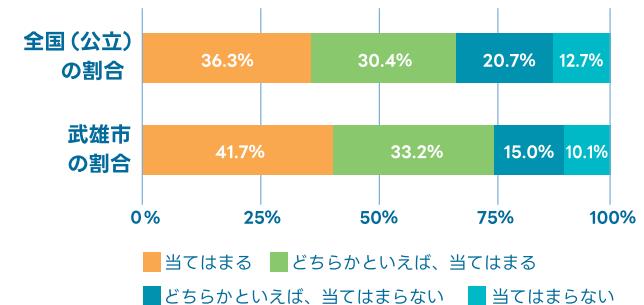
自分を肯定的に捉え、将来の夢や目標を持っている子どもたちが多く、また、学校での学習の状況に対する肯定的な回答や、いじめに対する意識が全国値より高い結果も得られています。一方で、小・中学生ともに、家庭学習の時間が全国を大きく下回り、スマホでの SNS や動画視聴の時間が増えています。デジタルドリルなどを活用した効果的な家庭学習、時間の有効的な活用方法についても考えていく必要があります。



【小学校】自分には、よいところがあると思いますか



【中学校】将来の夢や目標を持っていますか



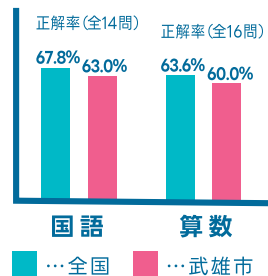
■ 教科に関する調査結果（R6年4月実施）

全国平均には達していませんが、問題によっては全国値を上回っています。苦手な部分を伸ばしていく必要があります。また、低中得点層の底上げといった課題も見えています。

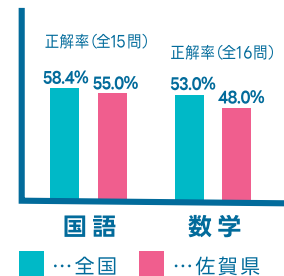
主体的・対話的な学びを実現する授業を実践し、子どもたちが学ぶことに興味や関心を持ち、主体的に学び、他者との対話を通じて自己の考えを広げ深め、そして自分の思いや考えを形成する力を伸ばすことで結果的に教科学力の向上につなげていきます。

※県立中学校に通う生徒も多いため、佐賀県の結果を引用しています。

小学校



中学校



プラン① 授業が変わる

個別最適な学び # 協働的な学び # 教育 DX

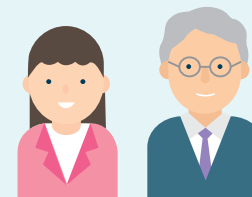
教師がもっと、こどもたちに向き合えるために

今後も進化しつづける学校教育を支えるために、学校・教師の伴走支援を行います。

学校教育を支える教師の働き方改善が求められていますが、依然として長時間勤務の教師が多い実態も明らかになっています。その要因は授業以外の多岐にわたる学校課題や中学校部活動の対応など様々です。学校に求められる役割が増えているためであり、学校の在り方そのものも考えていく必要があります。

【授業以外の業務】

- 児童生徒の対応：始業時・終業時の活動、朝学習の指導、給食や掃除指導、進路指導など
- 保護者の対応：けがやトラブルの対応、個人面談、家庭訪問、問合せ・過剰な苦情対応など
- その他（校務）：学習記録や通知表の作成、指導計画の作成、学校・教室の管理など



こどもたちの学びを充実するために、教師がこどもたちに向き合う時間や教師のスキルアップの機会を確保します。

●研修や研究会の充実

拠点となる研究指定校を置き、教師が学び合う機会を設けています。市内小・中学校に勤務する教師が参加する武雄市教育研究会の活動を支援します。

●専門スタッフの配置

支援が必要なこどものために、カウンセラーなどの専門スタッフや生活支援員・訪問支援員・校内教育支援センター支援員を配置しています。また、一部の中学校では部活動支援員を配置しています。

●校務 DX の推進

業務の効率化や省力化を進めるため、業務の実態を調査し、効果的な校務支援システムの導入などを進めます。

●ICT 環境の整備

授業や校務の支障が生じないように機器やネットワークの管理を徹底して行っています。すべての小・中学校に ICT 支援員を配置し、GIGA スクール運営支援センターを中心として ICT 活用を支援しています。

プラン② 特色ある学校づくり

#コミュニティ・スクール #地域学校協働本部
#官民一体型学校 #体験活動の充実

学校の特色を生かした学びを大切に

多くの大人の関わりで、こどもたちの体験を広げます。

各校にはその規模（児童生徒数）や歴史、地域性などによる違いがあります。各々が教育目標を掲げ、地域やPTA、企業など各種団体が協力するコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を導入し、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

民間企業と連携する「官民一体型学校（武雄花まる学園）」は設立から10年を迎えました。特色ある学校づくりの取組の一つとして、さらに、協定期間を3年延長し、各小学校のスタイルで継続して実施します。

各町には地域学校協働本部を設置し、官民一体型学校の取組や、地域の老人会や婦人会、まちづくり協議会などによるサポートで、昔遊びや農業体験、ものづくりなどの体験を通して、学習の充実が図られています。



教育コラム

●官民一体型学校の取組

「公教育」のシステムに、花まる学習会の「民間」ノウハウや活力を融合し、武雄市の学校教育が目指す、たくましく生きる個の力と他者を認め協働して生きる集団の力を伸ばす取組をサポートします。



●各種団体による授業支援

例えば

老人クラブ 婦人会	小学校	生活科 社会科 家庭科	昔遊び 裁縫 味噌づくり
PTA		総合的な学習の時間	農業体験
企業	中学校	総合的な学習の時間	職場体験



プラン② 特色ある学校づくり

#コミュニティ・スクール #地域学校協働本部
#官民一体型学校 #体験活動の充実

「こども主体の学び」を進めるために

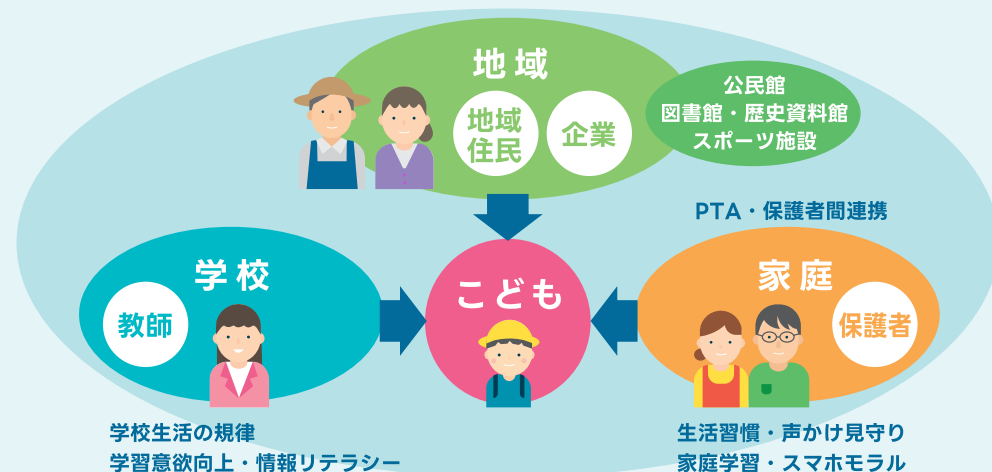
家庭や地域、企業などの学校を取り巻く皆さんの協力が欠かせません。

学校が抱える課題が複雑化している状況の中、課題を解決し、こどもたちの学びを支えていくためには、学校がより一層地域に開かれ、地域と学校が積極的に向き合い、信頼される学校づくりが必要です。

一方で、学校や教師への高い期待により保護者や地域からの要望が増え、負担が増大している実態があります。周囲の理解を高め、また学校現場の校務DXや業務改善を進めることで、こどもたちと教師の時間を創出します。

こどもたちだけが学ぶのではなく、周りの大人たちも一緒に学び、地域全体で学校をより良いものにしていこうという思いを高め、こどもたちを見守っていきましょう。

子ども目線でみる社会



学校、家庭及び地域の役割と責任

学校	こどもが、学校生活での規律を重んじ、自ら学習に取り組む意欲を高める。
家庭	こどもの生活に必要な習慣を身につけ、心身の調和のとれた発達を図る。
地域	体験活動などを通して、地域への愛着や誇りを育み、地域を担う人材を育む。

※家庭…保護者は子の第一の責任者

参照：教育基本法（平成 18 年 12 月 22 日法律第 120 号）、文部科学省第 4 期教育振興基本計画（令和 5 年 6 月 16 日閣議決定）

プラン③ 多様な学びの場の充実

#不登校支援 #特別支援教育

自分に合った学びの場で

学校に行きたくても行くことができない子どもたちがいます。

不登校は、問題行動ではありません。取り巻く環境によっては、どの子どもにも起こり得るものです。支援に際しては「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、子どもが自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指しています。



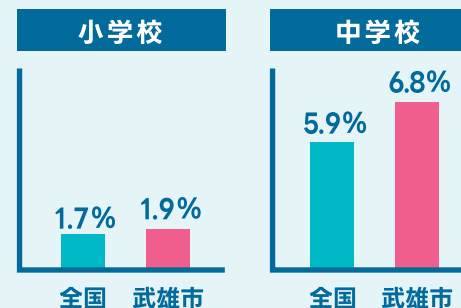
教育コラム

●不登校支援

誰一人取り残さず、学びが届く不登校支援の仕組みをつくります。

■武雄市の不登校の割合（令和5年度）

武雄市では、令和5年度に小学生で1.9%、中学生で6.8%が不登校（年間30日以上欠席）となっており、全国的（小学生1.7%、中学生5.9%）にも年々増加傾向にあります。また、不登校傾向（欠席日数が年間30日未満）の子どもや登校できても教室に入れない子どもも増加しています。その数は、小学生で1.8%、中学生で5.2%、不登校・不登校傾向を合わせると、小学生で3.7%、中学生で12.0%です。



校内教育支援センター

教室に入りにくいと感じている子どもたちが落ち着いた空間で学習・生活できる居場所として校内に設置しています。



教育支援センター「スクラム」

小・中学校を休んでいる子どもたちをサポートする学校以外の居場所として設置しています。

プラン③ 多様な学びの場の充実

#不登校支援 #特別支援教育

一人ひとりの、できるを伸ばす

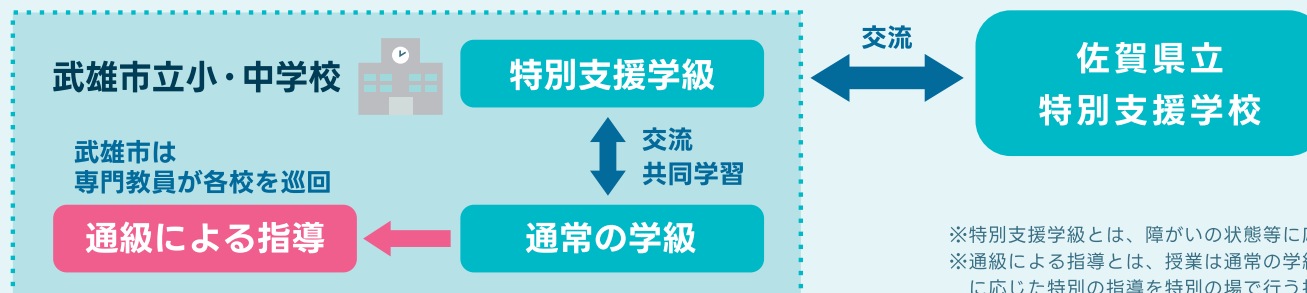
こどもの障がいの状態等を把握して教育的ニーズに応えます。

将来のこどもたちの「自立と社会参加」を見据えて、こども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を提供できるよう連続性のある多様な学びの場（通常の学級、特別支援学級、通級による指導）の環境整備を行っています。武雄市ではこどもや保護者の負担を減らし、在籍校に通級指導の教師が巡回する方式を取り入れています。



教育コラム

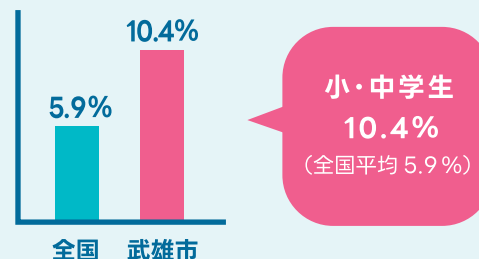
●特別支援教育



※特別支援学級とは、障がいの状態等に応じた指導のため、特別に編成された少人数の学級
※通級による指導とは、授業は通常の学級で行いつつ、週に1～2時間ほど障がいの状態等に応じた特別の指導を特別の場で行う指導形態の一つ

■特別支援学級及び通級による指導を受けているこども（令和5年度）

発達支援（特別な配慮）が必要なこどもも年々増加傾向にあります。特別支援学級及び通級による指導を受けているこどもは、令和5年度の実績で小・中学生で10.4%（全国平均5.9%）となっており、また通常の学級にも支援が必要なこどもがいます。



プラン④ 支援体制の充実

#教育と福祉の連携 #放課後支援 #こどもの貧困対策

一人ひとりに必要な支援を届ける

教師だけで解決できない課題が増えています。

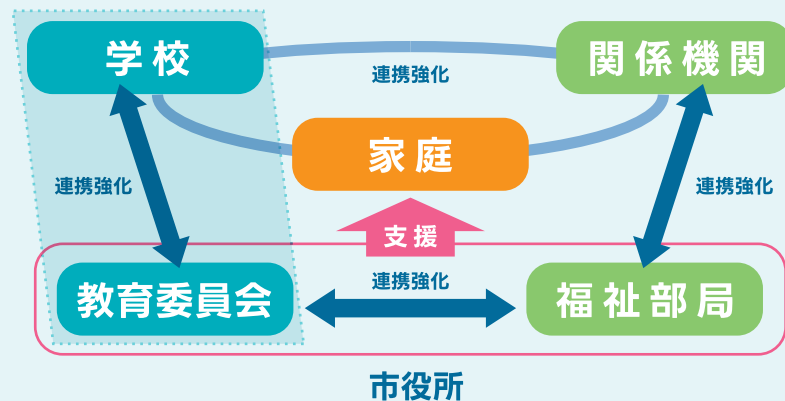
学校には、学習面だけではなく、心身の健康や生活面など様々な支援を必要とするこどもたちがいます。武雄市では学校医やカウンセラー、ソーシャルワーカーなどの専門スタッフや、教師 OB による「こどもの笑顔コーディネーター」、生活支援員などが加わり、『チーム学校』としてこどもたちをサポートしています。教師だけでは対応が難しい複雑なケースや見過ごされがちな問題には福祉部門が補完し、より包括的に支援を行っています。



教育コラム

●教育と福祉の連携

家庭や地域の協力が欠かせないケースでは、教育と福祉の関係機関が連携し、こどもたち一人ひとりの支援計画を作成し、具体的な支援につなげていく必要があります。



●こども・保護者（家庭）への支援

こどもだけではなく、保護者のサポートも欠かせません。

●放課後児童クラブの運営

保護者が仕事等により昼間家庭にいないこどもたちが、安全に過ごす場所を設けています。

- ・適切な遊びと生活の場の提供
- ・支援を要するこどもたちの対応
- ・専門スタッフによる支援員の相談支援



●家庭支援のための相談窓口

市役所2階にこども教育部・福祉部の一部を集結して情報提供や相談支援を行っています。

- ・支援のための情報提供の推進
- ・専門スタッフによる保護者への相談支援
- ・こどもの特性に関する相談支援
- ・就学時の相談支援



プラン⑤ 未来を切り拓く力を育む

#英語力向上 #キャリア教育 #企業連携

こどもたちの可能性を最大限に

社会と交わりながら学んでいく機会を増やすことも重要なカギとなってきます。

グローバル化や ICT 技術の進歩などの変化の激しい時代において、こども一人ひとりが個々の夢に向かってどのように未来を切り拓いていくのか。そのためには、英語力の向上や、コミュニケーション力、創造力、課題発見・解決力などの能力を伸ばしていくことで、幸せをつかむ可能性が広がります。



教育コラム

●英語力を伸ばす取組

小学校の教育課程でも英語が取り入れられています。授業以外にも、早い段階から英語に触れる機会を増やし、自分の英語力を把握したうえで、目標に向かって努力する環境を創っていきます。

- ・オンライン英会話・イングリッシュキャラバン
- ・英語力測定の機会づくり



外国語活動	外国語科	外国語科
小学校	小学校	中学校
3・4年	5・6年	1・2・3年

- 目標①**
話す力、書く力を伸ばす
- 目標②**
中学3年で英検3級相当の力をめざす

●地域一体のキャリア教育

PTA や地域、企業等による協力によって学校での特別活動や教育課程以外での探求的な学びの機会の創出など、地域一体でのキャリア教育の充実を図ります。

学校での学び
教育課程全体を通じた
必要な資質・能力の育成



地域・企業の協力による学び
学校での特別活動
教育課程以外での活動

教科の授業、道徳、総合的学習
特別活動…生徒会活動、学校行事（運動会など）
教育課程以外での活動

小学校	中学校
1・2・3・4・5・6年	1・2・3年

生きる力、
未来を切り
拓く力を育む

プラン⑥ 豊かな体験を増やす

#スポーツ #部活動の地域展開
#文化芸術 #伝統芸能

こどもは地域のたから

地域での様々な体験で、こどもたちは大きく成長します。

スポーツや芸術文化の活動は、より豊かに生きるために欠かせないものです。地域の中で得られる経験が、こどもたちの心豊かな成長につながります。地域によっては、こどもクラブの活動、通学宿舎や放課後学習会など、こどもの体験づくりや居場所づくりに積極的に取り組んでいます。また、中学校の放課後の様子も変わろうとしています。生徒数の減少などにより学校ごとの部活動の数が減り、やりたいと思う活動ができない事例も増えています。まずは休日の部活動、その次は平日の放課後も、学校だけではなく、地域でこどもたちの活動の場を考えていくこととなります。



教育コラム

●部活動の地域展開

文部科学省は部活動の地域展開について、2026～31年度を「改革実行期間」と位置づけ、早期の実現を目指しています。武雄市においても、生徒のための持続可能な体制づくりを進めていきます。

準備期間

- ・アンケート実施
- ・拠点校方式による部活動
- ・合同練習会の実施

方針決定 計画策定

段階的な 地域展開

メリット

- ①生徒の選択肢が増える
- ②専門的な指導が受けられる
- ③学校活動以外での交流が生まれる

●郷土学習・伝統芸能体験

学校教育では、国語や社会、音楽などの様々な教科を通して、日本や地域社会における伝統や文化に親しむことも重要です。さらに、実際に地域の伝統文化に触れることで、多様な価値観や感性を身につけることができます。



●図書館・歴史資料館での体験

こども読書会やこども仕事体験など、様々なイベントを通して、こどもたちがたくさん本に触れ、新たな知識や体験を得ることができます。また、企画展示を通じて、国の重要文化財など貴重な史料を間近で見学でき、教科書だけでは学ぶことのできない歴史の深さを体感することができます。



主な施策のスケジュール（目標値）

	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	3年後のすがた
プラン① 授業が変わる					
教育DXの推進 「こどもが主体的に学ぶ授業」	・文部科学省LDXスクール事業 ・職員研修、研究会の取組	指定校を中心とした取組の推進			市立全小・中学校による「個別最適な学び」と「協働的な学び」との一体的な充実
学校・教職員サポート 「業務削減」「働き方改革」	・校務DXの推進、 サービス管理システムの導入	現状調査・分析			学校の業務改善によって向上する こどもたちの学びの充実
教育DXに係る環境整備	・校務用端末の更新	・ネットワーク更新の構築作業	・学習用端末の選定 ・ネットワークの更新	・学習用端末の更新	計画的更新による学習環境の確保
プラン② 特色ある学校づくり					
特色ある学校づくり 「官民一体型学校」	・各校における教育目標の達成 ・市内一律の取組	・学校と地域が連携したコミュニティスクールの実践 ・各校選択による官民一体型学校メニューの実施			各校における特色ある学校づくりの達成 たくましく自立できる力の向上
プラン③ 多様な学びの場の充実					
不登校支援事業	・教育を受ける場の 強化・拡大等の検討	・教育支援センターの強化 ・学びの多様化学校の調査・研究			教育を受ける機会の拡大 学校内外の機関において、相談・支援を 受けた児童生徒の割合95%以上
特別支援教育	・支援システムの導入	・通級による指導の場の拡充 ・適正就学に向けた相談会の実施			個に応じた指導による学びの充実
プラン④ 支援体制の充実					
教育と福祉の連携	・教育と福祉の連携強化 ・家庭支援のための相談窓口の強化・情報提供の推進				乳幼児期から学齢期、社会参加に至る まで地域連携による切れ目ない支援体 制の構築
プラン⑤ 未来を切り拓く力を育む					
英語力向上事業	・オンライン英会話、イングリッシュキャラバンの実施				「英語の時間が楽しい」「英語を話せる ようになりたい」児童生徒数の増加 英検3級相当の生徒割合 中学3年生60%以上
地域連携・企業連携 「キャリア教育」	・各校でのキャリア教育実施	・実態調査	・協力団体登録の制度化		地域や企業など多種団体の協力による 児童生徒の体験機会の増加
プラン⑥ 豊かな体験を増やす					
学校部活動の地域展開	・拠点校方式の導入	段階的な地域展開 ・拠点校方式での実施 ・休日合同練習会の実施			休日から平日の活動へ、段階的な 学校部活動の地域展開



いま、学校を次の時代に進めるとき

こどもたちが、
イキイキできる場所で
ワクワク学び、
キラキラ活躍できる未来のために

私たちができることを

さあ、みんなで
これからの学校の話しよう

